

# Campus Today



## 第117回 歯科医師国家試験

# 本学新卒合格率 90.2%



歯科医師国家試験に向けた出発式で必勝を誓う6年生

**過去5年の新卒平均合格率は全国第2位！  
実力を発揮し毎年安定して好成績おさめる**

厚生労働省は3月15日（金）、第117回歯科医師国家試験の合格者を発表した。本学の新卒受験者51人中46人が合格し、合格率は90.2%。新卒者合格率は4年連続で90%を超える結果となり、近年の歯科医師国家試験において、本学は実力を発揮して安定した好成績をおさめている。

今回、新卒者の学校別合格率においてのみであった。90%を超えたのは、私立では東京歯科大学、大阪歯科大学、昭和大学、そしてわが松本歯科大学の4校、国立では岡山大学、鹿児島大学、長崎大学、北海道大学、大阪大学の5校、計9校。3人は見事に雪辱を果たした。これに



自主勉強会で教員に質問する学生たち

より、過去5年の平均合格率は91.7%となり、全国29校中で第2位である。

本学においては、2020年の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）発生に対して、厳しい感染対策の下、対面授業を一貫して継続、学生と教職員一体となった教育体制を継続維持することができた。

授（小児歯科学）を中心とした教員と、学年委員長の松浦宏季君らが率いる学生組織および学事室を中心とする全学職員が有機的に結合することにより、休日を含めた毎日の教育管理体制を構築できたことは素晴らしいことであった。

松浦君をはじめとした学年委員会有志らは、昨年10月の夕方6時より、歯科医師国家試験を見据えて、自主勉強会を創立30年記念棟2階のカフェテリアにおいて開催。教員も時間があれば自主勉強会に顔を出して、学生たちの質問に答え、6年生全員の学力アップをはかった。自主勉強会は、40期生の先輩たちが始めたもので、その後44期生が復活させ、以後受け継がれている。

今回の国家試験総出願者数は3568人であったが、実際の総受験者数は昨年より40人少ない3117人であった。新卒の未受験者は393人であり、減少傾向にはあるが、各大学において国家試験受験者は依然厳しく絞られている。

総合格者数は、昨年より54人多い2060人となり、既卒・新卒を含めた全体の平均合格率は66.1%、国立・公立大学は78.0%、私立大学は62.0%であり、過去10年間で最も高い合格率となった。新卒者の合格率は4.2%上昇したが、既卒の合格率は2.4%下降した。

厚生労働省歯科医師国家試験制度改善検討部会による諮問により、前回の歯科医師国家試験から、令和5年版の新しい改訂版出題基準からの問題出題となった。合格基準は、必修（80題）、領域A（総論）（一般問題100題、領域B（各論）（一般問題80題と臨床実地問題80題）に改定された。今回の合格基準は領域A 63.8%、領域B 67%、必修80%であり、合格基準は昨年とほぼ同様であった。

### スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム

### 病院スタッフが歯科健診のボランティア活動

2月24日（土）・25日（日）に2024年第8回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲームが長野市のビックハウスで開催され、アスリートの健康とヘルスケア向上のための「ヘルシー・アスリート・プログラム」を実施するために、本学の歯科医師6人、歯科衛生士4人がスペシャルスマイルズS（歯科検診）のボランティア活動に従事しました。

スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム開催時には、知的障害者の健康増進を目的に、眼科、歯科、耳鼻科、整形外科、足のケア、栄養・生活習慣の6部門の検診事業が実施され、医師、歯科医師、歯科衛生士など専門職150人（各日）が参加しました。

日常的に適切な検診を受ける機会が少ない知的障害のあるアスリートに検診の機会を提供し、健康教育を行うことで、彼らの競技能力や生活の質の向上を目的としています。また、参加していただく医療関係者が、知的障害のある人たちの独自のニーズや、彼らに必要なケアについての理解を深めていただく機会になっています。



ボランティア活動を行ったスタッフ

我々小児歯科が担当したスペシャルスマイルズは、筆者が準備委員長となり、正村正仁准教授を副準備委員長とし、準備を進め、事前に検診のためのWeb研修会を実施し、ギフトなどの協賛も確保しました。

参加者は、両日ともにユニクロから提供されたボランティアウェアであるブロックテックパーカーを着用し、歯科検診を実施しました。

松本歯科大学には、2024年第8回スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲームの協力団体となり、スペシャルスマイルズの実施に当たり、検診参加者へ歯ブラシセットやノートの文具をギフトとして提供していただきました。

スペシャルオリンピックスは、知的障害のある人たちにさまざまなスポーツトレーニングとその成果発表の場となる競技会の提供をする国際組織で、この国内本部がスペシャルオリンピックス日本です。本大会は来年開催予定の冬季世界大会の日本選手団の選考を兼ねて実施されました。

（小児歯科学 教授 大須賀直人）

### 松本歯科大学歯科医師国家試験 新卒合格率 4年連続 90%以上

第117回 (本年度)	90.2%
第116回	93.1%
第115回	90.4%
第114回	95.4%

（歯学部長 宇田信之）



### 万博反対派に告ぐ。世界に見られている自覚を忘れるな！

内閣官房参事  
松本歯科大学常務理事  
特命教授 飯島 勲

今月号は「プレジデント」4月12日号「リーダーの掟 飯島 勲」より、大阪・関西万博開催の是非についての記事を要約して紹介します。

個人番号制度の先進国であるスウェーデンでは、電話番号、クルマのナンバー、医療記録、銀行口座、給与明細など生活のあらゆる場面に用いられる番号が個人番号に紐づけられているという。だから所得も控除も個人番号ごとに集約されていて、納税手続きもスマホ一つで簡単にできるらしい。医療記録は、納税手続きの控除に使えるだけでなく、「おくすり手帳」の役割も兼ねているから、ふだん病院に行くときにも便利だ。

米国の個人番号であるSSN（ソーシャル・セキュリティ・ナンバー）も、銀行口座と税務申告に紐づいている。日本では、コロナ禍の1人10万円を給

毎年、確定申告に悩まされている私としては、マイナンバーに紐づいている口座情報から自動的に所得額を割り出し、医療費の情報などから控除額を計算して自動的に納税できるようなシステムができれば、とてもありがたい。実現すれば、税務署側も納税者側もかなり楽になると思うし、カードの発行もさらに進むはずだ。必要経費などについては、後から申告して還付を受けられるようにすればいい。個人事業主としても、還付金のための申告なら手間を惜しまないはずだ。

デジタル庁によれば、2024年1月現在、マイナンバーの全人口に対する申請件数は79.1%に達している。意外と普及しているというのが素直な感想だ。私も一応、マイナンバーを作ったのだが、これまで一度も使ったことがない。現状では、コンビニで住民票や印鑑証明を発行できるくらいであり、メリットは感じない。



大阪関西万博（仮称）夢洲メイン会場建設中

昨年11月、メキシコとエストニアが国内の財政事情を理由に参加辞退を表明し、万博開催のピンチと報じられた。実は、これとは別にトルコとイランからも参加が困難との打診があった。両国の政府要人に私の知人が多いことから、経産省と外務省の担当者から相談を受け、まずは、エルドアン大統領の理解が得られれば参加辞退は避けられる可能性があるトルコへと飛んだ。私は大統領の側面に接触し、日本側の事情を説明することに成功。その甲斐があつて、トルコは参加辞退を撤回してくれた。

イランの場合は万博参加の意欲はあるものの、米国を中心とした各国の経済制裁の関係で国際的な金融システムから排除され、日本に送金できないため、パビリオンの準備が進められないという。とにかく、万博関連については特例で送金が認められるように、外務省を通じて各方面に働きかけを行っている。

私は、国際社会との約束を果たすという意味でも、予定通りに万博を開催してほしいと考えている。その一方で、このままでは来年4月の開催に間に合わないことを心配している。世論もまったく盛り上がりず、万博に税金を投入するならば、能登半島地震被災地の復興に使うべきでは、と考える人が多いのも理解できる。しかし、無事に開催されれば、大阪だけでなく京都、神戸、広島といった西日本の観光地への経済効果は計り知れない。北陸も大阪からは交通の便が良く、観光客の増加が見込まれ、復興にもきつと役立つはずだ。

岸田文雄首相は2月の国会で「万博の延期、中止の必要は認識していない」と明言した。間に合わせるためには、官民が一体となつて、全力で準備に取り組むしかない。いまの状況で開催を断念したら国際社会に顔向けできない。このことをいまま一度自覚すべきだ。

### 創立者の「視点」



大学誌編集主任  
特任教授 笠原 浩

当初は「ムシ歯の洪水」と闘うためのリコール・システムの円滑な運営を目的として組織した「子どもの歯を守る会」が、各地の婦人団体などとの協力で、さまざまな地域活動を展開していきようになったことを前回に記した。

こうした活動は、新聞や雑誌等マスコミにも取り上げられ、住民運動の活性化など社会的にも少なからざる反響を生んでいた。1971年に東京都日野市で「子どものムシ歯の予防処置に対する公費負担を求める請願」が市議会にて採択されたのを皮切りに、各自治体への請願運動が続き、立川市での学童フッ素塗布の無料化など、具体的な成果が次々に得られるようになった。

### 60年前の歯科医療(14)

「白鳥の湖」(チャイコフスキー作曲 バレエ「白鳥の湖」より) テーマからドラマクワイマックスへ) など、特別プログラムで行われると。当日は、学生による大学祭(松濤祭)も同時開催される。

最後に、内閣総理大臣の佐藤栄作氏にも意見が求められ、「政府としても国民の歯の健康の重要性については十分に認識しており、子どもたちの歯を守るために必要な施策を検討していく」と話された。

### 観桜会 6年ぶりの開催へ 西本智実さん指揮「桜コンサート」も

4/29 (月・祝)  
開場 13:30 開演 14:00

会場: 松本歯科大学体育館  
入場無料



© 塩澤 秀樹

キャンパスの八重桜の見ごころに合わせた恒例行事、第24回観桜会が4月29日(月・祝)午前10時から、松本歯科大学で開かれる。新型コロナウイルスの影響などで見送りが続き、6年

ぶりの開催となる。桜の木の下での箏や太鼓の演奏、そは打ち名人によるそば会、子供に大人気のミニSLコーナー、輸入車展示会など、さまざまな催しを準備している。メインイベント

は、国内外で活躍する女性指揮者で、本学名誉博士でもある西本智実さん率いるイルミネーション「桜コンサート」で、招待者一般来場者向け(午後2時開演)と、学生向けの計2回公演を行う。入場は無料だが、入場チケットが必要で、一般来場者には当日午前10~11時に、「受付」で配布する。枚数に限りがあり、なくなり次第配布終了となる。

観桜会は、中庭や病院正面、30年記念棟西側など、キャンパス各所にあるさまざまな八重桜を、地域の皆さんにも楽しんでもらおうと1995年に始まった。6年ぶりの今回は、「受付」を本部館の正面玄関前の特設テント内に設け、キャンパス内を回遊しながら楽しむ予定です。本部館の近くではミニSLを走らせ、中庭には茶席や箏のミニ

### 第36回松濤祭「返り咲け桜」本番に向け学生たちの準備進む

学生による大学祭、第36回「松濤祭」は4月29日(月・祝)、松本歯科大学病院患者様第二駐車場を主会場にして開かれる。観桜会と同日の開催で、学生たちはさまざまな企画を練り、準備に奔走している。

松濤祭は、新型コロナウイルスの流行により中止が続き、昨秋には縮小版を開催したが、従

来規模での開催は5年ぶりとなる。テーマは「返り咲け桜」で、従来規模での開催を喜び、盛会を願う気持ちを表現した。準備は、歯学部生を中心に、衛生学院生も加えた10数人が実行委員会を組織し、主導している。

模擬店は学年や部、有志などのグループ単位で多数が出店予定。特設ステージで午前は11時

「ムシ歯の洪水」の最中、「泣く子はお断り」、の現実が横行していることは、前にも記した。その原因のひとつは、日本歯科



理事会報告

省エネ対策を引き続き推進し、コストの削減に努める

学校法人松本歯科大学の第209回理事会、第150回評議員会が3月28日(木)に開催され、2024年度の事業計画および予算案、中期計画などの案件が審議され、いずれも満場一致で承認可決した。



挨拶をする矢ヶ崎理事長

【主な会議事項】

- 1. 中期計画(2024~2028年度)案
2. 2024年度事業計画
3. 2023年度補正予算案および2024年度予算案
4. 2024年度内借入限度額の承認

会議事項1~4について詳細な説明がなされ、承認可決された。なお、2024年度事業計画の目標および概要は次のとおり。

【事業計画(目標)】

1. 歯学部

松本歯科大学(歯学部)は、1972年4月1日に開設し、本年度で53年目を迎える。歯学部は、建学の理念を具現化し、人間教育全体を教育目標とし、人間としての倫理に基づき「良き歯科医師となる前に良き人間たれ」という教育方針をモットーに、歯科医師として社会に貢献し、歯科医学の発展に寄与できる人材育成を目指している。

し、共同研究を進め、世界に通用する最先端の研究に取り組んでいる。

- ①入学定員充足率の向上
②大学院教育の実質化
③標準修業年限内での学位授与の促進
④研究者、大学教員の養成
⑤世界水準の研究活動の推進

3. 衛生学院

松本歯科大学衛生学院は、1976年4月に開校。1977年3月に専修学校として設置認可を受け、本年度で49年目となる。

衛生学院は、歯科衛生士に必要な知識と技術を教授し、豊かな人格を養い、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。

今日、人口の高齢化が進行するに伴い、老後のQOLを支える柱として、歯と口の健康の意義が再認識されるようにな

り、口腔健康管理の担い手としてその活動分野はますます広がっている。チーム医療の推進が強調されるなかで、歯科医師をはじめとする多くの職種と協働して専門性を発揮できる、質の高い歯科衛生士を送り出せるよう、教育内容の一層の充実を図っている。

- ①社会のニーズを踏まえた実践的な歯科衛生士の育成
②授業内容の改善
③効果的・効率的なカリキュラムの検討・改善
④新卒者の歯科衛生士国家試験の全員合格
⑤入学定員の確保と優秀な入学者の確保

〔II 病院・診療〕

地域医療及び本学を支える医師、歯科医師、パラメディカルスタッフを育成し、経費率意識及び自費率の向上を図る。地域医療を支え、質の高い医

療の提供、県内の病院診療所と連携を強化させ、健康寿命の延伸に向けた疾病予防・重症化予防、及び各科の患者情報を共有し、医科歯科連携を充実させる。新たなウイルスに対し感染予防を強化し、社会貢献を果たす。

- (1)歯科部門
①人材の育成
②医療収益の向上
③病診、病病連携の強化
④歯科医科連携の充実
⑤新型コロナウイルスを含めた感染予防の強化

〔III 管理・運営〕

病院の収支改善、学生募集における募集人員の確保、それ以外

- (1)施設・設備の維持管理
(2)省エネルギー対策
(3)設備の更新
(4)図書館では、今後対応不要となるマイクロフィルム等の資料を冊子体に変換し利用可能な資料とする。
(5)新規人材の確保及び、優秀な若手人材登用を進め人員体制整備を実施する。定年退職(予定)者の業務引き継ぎを進めつつ事業継続可能な人員体制構築に向け、中途採用を含め人員の確保に努める。
(6)外部研究資金確保のため、分析状況を学内に周知し、研究者の意識向上を推進して、研

- (7)病院運営効率化の推進及び収益率の改善に努め、人間ドックや保険外診療の拡充により、更なる収入確保を目指す。
(8)歯科医師国家試験の合格率、特待生制度についてアピールを行い、多くの受験生を獲得し、募集人員を確保する。
(9)インターネット出願、検定料のコンビニ支払いを検討し受験者増を目指す。
(10)科学研究費補助金などの公的研究費や、共同研究費などの外部資金を活用した研究環境の整備に努める。
(11)知的財産の管理の適切なライセンス活動に努める。
(12)噛むことを意識したカムカムメニュー関連行事を継続実施する。
(13)市民公開講座を開催する。

役職教員

理事長 矢ヶ崎 雅



学長 川原 一祐



歯学部長 宇田川信之



教務部長 中村 浩彰



図書館長 金銅 英二



学生部長 大須賀直人



大学院歯学独立研究科長 平岡 行博



総合歯科医学研究所長 小林 泰浩



大学誌編集主幹 笠原 浩



東京診療所院長 矢島 安朝



病院長 樋口 大輔



副病院長 佐藤 晶



衛生学院長 笠原 悦男



副衛生学院院长 川原 一郎



2024年度予算

2024年4月1日～2025年3月31日

(単位 円)

Table with 4 columns: Income Category, Budget Amount, Expense Category, Budget Amount. Total income and expense are both 7,195,689,454 yen.



## 長野朝日放送 「駅テレマルシェ」で 中国レストラン Stardust を紹介



稲垣アナ（中央）とテーブルを囲む学生たち

2月24日（土）に放送された長野朝日放送の情報番組「駅テレマルシェ」において、本学の中国料理レストラン「Stardust」が取り上げられた。放送に先立ってロケが14日に行われ、同回の稲垣貴大アナウンサーが本学の概要やランチバイキングについてレポートした。

初めに本館学生ラウンジで学生に突撃インタビュー。勉強中の第2学年生・中山智貴君と楠田奈央さんが取材に応じ、自習のために本館学生ラウンジで学んでいる稲垣アナ（中央）とテーブルを囲む学生たち

のたために使っていた頭蓋骨の模型や学習ノートを見せて、歯科大生は歯だけでなく全身の勉強も必須であることを伝え、2人から「Stardust」のおすすめは「大きくてプリプリしたエビ料理」との情報を得た稲垣アナは、図書館内にある「Stardust」を訪ね、本格レストランの雰囲気を感じ、チャイロハン、エビマヨ、チンジャオロース、海鮮入りスパイシースープなど約10種類のメニューを紹介し、「大学内でクオリティの高い中華料理が味わえるなんて驚きです。おいしい食事は学生さんが6年間頑張れる源で、最高ですね!」とコメントした。また、居合わせた第3学年生の上條晃生君、木ノ島旺君、小林俊介君、平田雅美さんとテーブルを囲んで、入学動機やめざしたい歯科医師像などを尋ね、木ノ島君は「おいしい食事を味わえるのは、健康な歯があればこそ。歯科医師になつて人々の健康長寿に貢献したい」と答えた。上條君は、稲垣アナから指名されて、ゴマ団子の食レポに挑戦。「もちもちの生地とほどよい甘さのあんこ、そこにゴマの風味が加わって最高のおいしさ」とレポートし、番組内では、「稲垣アナを上回る食レポ」と、高評価された。コメントターからは「学食の概念が変わりました。うらやましい!」との声があがった。

さらに、本館売店の歯科用品コーナーも取材した稲垣アナは、「近くにあった学生さんが、おすすめの歯ブラシや歯磨きのコップを教えてくださいました。大学にはいかめしい門もないので、一般の人も気軽に立ち寄り、美味いものを食べて、やさしい学生さんと交流して歯について学ぶことができます」と、本学の魅力を総括し、熱く紹介した。

2023年度松本歯科大学衛生学院卒業式が3月5日（火）本学講堂で行われた。歯科衛生士を目指して学んだ卒業生24人は、晴れやかな表情で卒業証書を受け取ると、3年間通い続けた学び舎を後にした。



笠原学院長より卒業証書を受け取る卒業生（右）

式で矢ヶ崎雅理事長は、歯科衛生士は今後一層需要が高まる歯科医療の専門職であるとして、卒業生の活躍に期待した。笠原悦男学院長は「信頼される歯科衛生士となつて社会に貢献してください」と述べ、一人一人に卒業証書を手渡した。卒業生を代表して大月くるみさんが登壇し「これからも、目標に向かって努力していきます」と感謝と決意を述べた。

卒業式では、学業成績優秀者が対象となる学院長賞や、皆勤賞、精勤賞の表彰も行い、延べ15人に表彰状が贈られた。受賞者は次の皆さん。

- ▽学院長賞 大月くるみ
- ▽皆勤賞 大月くるみ 上條百恵 坂井歩
- ▽精勤賞 梅村美里 奥野まい 唐澤塔子 清沢文 小林美由夏 酒井紀子 櫻井映理子 高橋美衣 中野綾音 古澤環 丸山紗生

は、「近くにあった学生さんが、おすすめの歯ブラシや歯磨きのコップを教えてくださいました。大学にはいかめしい門もないので、一般の人も気軽に立ち寄り、美味いものを食べて、やさしい学生さんと交流して歯について学ぶことができます」と、本学の魅力を総括し、熱く紹介した。

2023年度松本歯科大学衛生学院卒業式が3月5日（火）本学講堂で行われた。歯科衛生士を目指して学んだ卒業生24人は、晴れやかな表情で卒業証書を受け取ると、3年間通い続けた学び舎を後にした。

式で矢ヶ崎雅理事長は、歯科衛生士は今後一層需要が高まる歯科医療の専門職であるとして、卒業生の活躍に期待した。笠原悦男学院長は「信頼される歯科衛生士となつて社会に貢献してください」と述べ、一人一人に卒業証書を手渡した。卒業生を代表して大月くるみさんが登壇し「これからも、目標に向かって努力していきます」と感謝と決意を述べた。

卒業式では、学業成績優秀者が対象となる学院長賞や、皆勤賞、精勤賞の表彰も行い、延べ15人に表彰状が贈られた。受賞者は次の皆さん。

- ▽学院長賞 大月くるみ
- ▽皆勤賞 大月くるみ 上條百恵 坂井歩
- ▽精勤賞 梅村美里 奥野まい 唐澤塔子 清沢文 小林美由夏 酒井紀子 櫻井映理子 高橋美衣 中野綾音 古澤環 丸山紗生

冒頭、樋口大輔病院長より「1年間の研修の結果を発表を期待するとともに、その経験を臨床研修歯科医全員で共有して、以降の診療に生かしてもらいたい」という激励の言葉をいただいた。

その後、研修管理委員会委員・管理診療科指導医の先生方の座長進行の下、病欠の1名を除く32人の研修歯科医による、15分間の症例報告が行われた。発表直後には、研修歯科医から、積極的な質問が行われ、症例に関する診断、手技などに関する討議が行われた。

最後に、森啓研修管理副委員長より総括をいただき、盛会のうちに報告会が修了した。

本年度の臨床研修は3月末日まで継続して行われ、22日と30日には研修歯科医への臨床修了式と修了証授与式が行われた。これからも本学病院臨床研修を巣立つ研修歯科医へのご支援を宜しくお願い申し上げます。

（2023年度研修管理委員会委員長 眞尋啓）

## 東京大学 大学院医学系研究科 高柳広教授・塚崎雅之特任助教が講演

第421回・第422回松本歯科大学大学院セミナーが1月11日（木）に開催された。講師は、東京大学大学院医学系研究科骨免疫学寄付講座特任助教・塚崎雅之先生と東京大学大学院医学系研究科免疫学教授・高柳広先生がそれぞれ担当された。

高柳先生は、「歯科疾患を対象とした骨免疫学研究の最新動向」というタイトルで最新の研究成果をわかりやすく丁寧に講義された。①歯周炎病変部のシグナル分子 RANKL シグナル分子による歯周病悪化原因のメカニズムについて②口腔がんの骨転移メカニズムについて③血管の石灰化のメカニズムについて講演された。

高柳先生は、破骨細胞の分化に必須なマスター転写因子である NFATc1 を発見された経緯を中心に話しされた。聴衆一同は2000年ごろにタイムパツクし、未知の時代に戻ったかのような新鮮な気持ちで興味深くお聞きした。共同研究者の児玉龍彦先生（東大先端科学技術研究センター）とディスカッションでの一言、「NFATc1は発生で最近、注目されています」という何気ない一言、さら

にその後、キーストーンシグナルで NFATc1 の講演を聞き、NFATc1 に違いないと着想され、次々とデータを出し NFATc1 が破骨細胞に必須の転写因子であることを論文にまとめられた。当初は、自然科学系の3大誌の一つ「Cell」に投稿されたが、すでに既知であるとして採択されなかった。その時の様子をヨットにたとえて、「完沈」（完全に逆さまになった状態）状態であったとおっしゃられていた。試行錯誤の末、「Cell」の姉妹誌に採択され、むしろ先生の執筆された論文のほうが注目され多く引用されているそうである。

いずれの先生の講演でも、研究成果が見事に結実するには人との出会い、よい恩師との出会いが最も大切な秘訣だと実感した。研究生活の中では思うようにいかず、「半沈」や「完沈」の状態に襲われることもあるが、何とか抜け出せる方法を模索し、研究成果を世に発信していきたいと感じる有意義なセミナーだった。先生方の今後のご研究の発展をご祈念するとともに、われわれも、先生方から学んだことを今後の研究活動に活かしていきたいと思う。

さまざまな分野で活用が進むドローンの操縦者養成講座が2月20日（火）から22日（木）まで、本学で開かれた。民間資格の初心者コースや、二等国家資格の夜間飛行コースなどが開講され、参加者たちが熱心に取り組んだ。指導は、神奈川県「ブネットドローン葉山校」の代表で、一等国家資格の修了審査員でもある原田章さんが中心となって行い、民間資格コースについては、一昨年から研修を重ねインストラクター資格を取得した本学職員も担当した。

受講者たちはドローンの性能や取り扱い方、飛行に関連する法律などを学んだあと、体育館での実技練習に取り組んだ。安全に飛行させるための飛行前チェックから、「スクエア飛行」「8の字飛行」「目視外」や「夜間」の飛行、GPS（全地球測位システム）に頼らない飛行など、目的やレベルに応じて繰り返し練習した。着陸後の機体のチェックも行い、講座の最後は、指導者たちから目標とする実技水準に到達したかどうかの厳しい判定を受けていた。



高柳教授（左）と塚崎特任助教

高柳先生は、破骨細胞の分化に必須なマスター転写因子である NFATc1 を発見された経緯を中心に話しされた。聴衆一同は2000年ごろにタイムパツクし、未知の時代に戻ったかのような新鮮な気持ちで興味深くお聞きした。共同研究者の児玉龍彦先生（東大先端科学技術研究センター）とディスカッションでの一言、「NFATc1は発生で最近、注目されています」という何気ない一言、さら

にその後、キーストーンシグナルで NFATc1 の講演を聞き、NFATc1 に違いないと着想され、次々とデータを出し NFATc1 が破骨細胞に必須の転写因子であることを論文にまとめられた。当初は、自然科学系の3大誌の一つ「Cell」に投稿されたが、すでに既知であるとして採択されなかった。その時の様子をヨットにたとえて、「完沈」（完全に逆さまになった状態）状態であったとおっしゃられていた。試行錯誤の末、「Cell」の姉妹誌に採択され、むしろ先生の執筆された論文のほうが注目され多く引用されているそうである。

いずれの先生の講演でも、研究成果が見事に結実するには人との出会い、よい恩師との出会いが最も大切な秘訣だと実感した。研究生活の中では思うようにいかず、「半沈」や「完沈」の状態に襲われることもあるが、何とか抜け出せる方法を模索し、研究成果を世に発信していきたいと感じる有意義なセミナーだった。先生方の今後のご研究の発展をご祈念するとともに、われわれも、先生方から学んだことを今後の研究活動に活かしていきたいと思う。

さまざまな分野で活用が進むドローンの操縦者養成講座が2月20日（火）から22日（木）まで、本学で開かれた。民間資格の初心者コースや、二等国家資格の夜間飛行コースなどが開講され、参加者たちが熱心に取り組んだ。指導は、神奈川県「ブネットドローン葉山校」の代表で、一等国家資格の修了審査員でもある原田章さんが中心となって行い、民間資格コースについては、一昨年から研修を重ねインストラクター資格を取得した本学職員も担当した。

受講者たちはドローンの性能や取り扱い方、飛行に関連する法律などを学んだあと、体育館での実技練習に取り組んだ。安全に飛行させるための飛行前チェックから、「スクエア飛行」「8の字飛行」「目視外」や「夜間」の飛行、GPS（全地球測位システム）に頼らない飛行など、目的やレベルに応じて繰り返し練習した。着陸後の機体のチェックも行い、講座の最後は、指導者たちから目標とする実技水準に到達したかどうかの厳しい判定を受けていた。

Matsumoto Dental University SNS Information

LINE

twitter

Instagram

facebook

## ドローン操縦者養成講座を開講 本学の体育館で実技を学ぶ

さまざまな分野で活用が進むドローンの操縦者養成講座が2月20日（火）から22日（木）まで、本学で開かれた。民間資格の初心者コースや、二等国家資格の夜間飛行コースなどが開講され、参加者たちが熱心に取り組んだ。指導は、神奈川県「ブネットドローン葉山校」の代表で、一等国家資格の修了審査員でもある原田章さんが中心となって行い、民間資格コースについては、一昨年から研修を重ねインストラクター資格を取得した本学職員も担当した。

受講者たちはドローンの性能や取り扱い方、飛行に関連する法律などを学んだあと、体育館での実技練習に取り組んだ。安全に飛行させるための飛行前チェックから、「スクエア飛行」「8の字飛行」「目視外」や「夜間」の飛行、GPS（全地球測位システム）に頼らない飛行など、目的やレベルに応じて繰り返し練習した。着陸後の機体のチェックも行い、講座の最後は、指導者たちから目標とする実技水準に到達したかどうかの厳しい判定を受けていた。

## 1年間の研修の成果を発表 臨床研修歯科医症例報告会

2023年度本学病院臨床研修歯科医による症例報告会が、本学図書館学生ホールにて2月29日（木）、3月1日（金）の両日に行われた。

冒頭、樋口大輔病院長より「1年間の研修の結果を発表を期待するとともに、その経験を臨床研修歯科医全員で共有して、以降の診療に生かしてもらいたい」という激励の言葉をいただいた。

その後、研修管理委員会委員・管理診療科指導医の先生方の座長進行の下、病欠の1名を除く32人の研修歯科医による、15分間の症例報告が行われた。発表直後には、研修歯科医から、積極的な質問が行われ、症例に関する診断、手技などに関する討議が行われた。

最後に、森啓研修管理副委員長より総括をいただき、盛会のうちに報告会が修了した。

本年度の臨床研修は3月末日まで継続して行われ、22日と30日には研修歯科医への臨床修了式と修了証授与式が行われた。これからも本学病院臨床研修を巣立つ研修歯科医へのご支援を宜しくお願い申し上げます。

（2023年度研修管理委員会委員長 眞尋啓）

**4月行事予定**

- 3日（水）～5日（金） オリエンテーション（第1学年）
- 4日（木） 入学式（歯学部・大学院・衛生学院）
- 5日（金） 健康診断（第1～6学年）
- 5日（金）～9日（火） オリエンテーション（歯学部）
- 8日（月） 前期授業開始（第1～3学年）
- 10日（水） 前期授業開始（衛生学院第1学年）
- 12日（金） オリエンテーション（衛生学院第1学年）
- 29日（月） 観桜会 松壽祭

**人事異動**

（定年退職） 3月31日付

- 増田 裕次（教授）
- 内田 啓一（教授）
- 森 啓彦（教授）
- 田中加緒里（事務総務課長）